



2023年9月期第一四半期 決算補足説明資料

2023年2月22日



決算サマリ

スロースタート

1Q決算は前年比54%減収。前年は売上案件が集中した一方、今期は案件計上が2Q以降から本格化の見通し

従来想定据置

ただし、1Qの低調は従来想定通り。現時点で通期見通しに変更なし

IT展開

問診票管理システムを開発展開。DX化により、患者と病院双方のメリットを追求。データベース展開も産学連携

投資戦略

ビジネス機会の開拓・獲得加速に向けて手元流動性を資本戦略や資金の一時立替え機会、病院の再生支援に活用



1

2023年9月期1Q決算実績



2023年9月期1Q経営成績①

- 対前年では54%減収、営業赤字。大規模案件計上の端境期となり、主力のメディカルトータルソリューション事業が売上の集中した前年との比較では厳しい結果に。ただし、これは案件計上タイミングの問題であり、想定通りの展開
- 通期見通しに対しては、売上でおよそ20%の進捗率。今期は2Q以降に売上の増加を想定するスロースタート型の展開

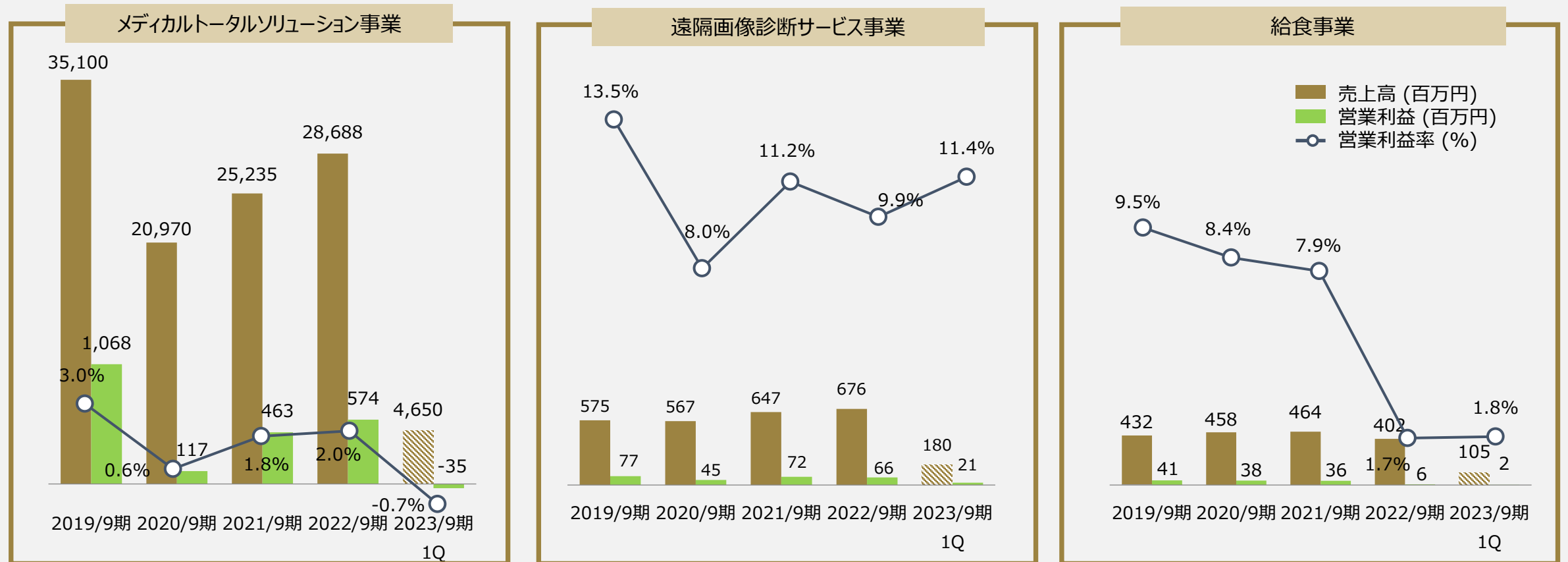
経営成績の推移

(百万円)	2021/9期 1Q実績	2022/9期 1Q実績	2023/9期1Q		2023/9期通期	
			実績	前年同期比 増減率	予想	進捗率
売上高	7,971	10,678	4,936	▲53.8%	25,000	19.7%
メディカルトータルソリューション	7,691	10,404	4,650	▲55.3%	24,000	19.3%
遠隔画像診断サービス	162	172	180	+4.7%	600	30.0%
給食	117	100	105	+4.7%	400	26.4%
営業利益	405	529	▲11	-	550	-
メディカルトータルソリューション	370	499	▲34	-	480	-
遠隔画像診断サービス	23	26	20	▲23.6%	60	34.2%
給食	9	2	1	▲17.8%	10	18.9%
調整	0	0	0	+19.8%	0	-
経常利益	404	582	▲10	-	550	-
親会社株主に帰属する当期純利益	265	388	▲24	-	360	-

セグメント別業績推移

- 主力のメディカルトータルソリューション事業は売上端境期となり、損益的にも経費負担重く、営業赤字からのスタート
- 遠隔画像診断サービス事業は堅調な推移継続。読影委託費上昇あるも、利益率改善に注力中
- 給食事業は物流費・食材費の値上げが影響。改善の糸口探る状況続く

セグメント別経営成績の推移





2023年9月期1Q経営成績②

- 四半期別の推移を見ると、前1Qはもっとも案件が集中していた「ベストな四半期」。対照的に、今1Qは前年4Qから継続する売上端境期に相当。ただし、案件により四半期で売上高が大きく影響を受けるのは狩猟型ビジネスモデルの宿命でもあり、想定範囲内
- ただし、対4Q比較では端境期ながらも回復基調で推移。閑散期のボトムは過ぎたと認識
- 遠隔画像診断サービス、給食事業も徐々にボトムアウト

経営成績の推移

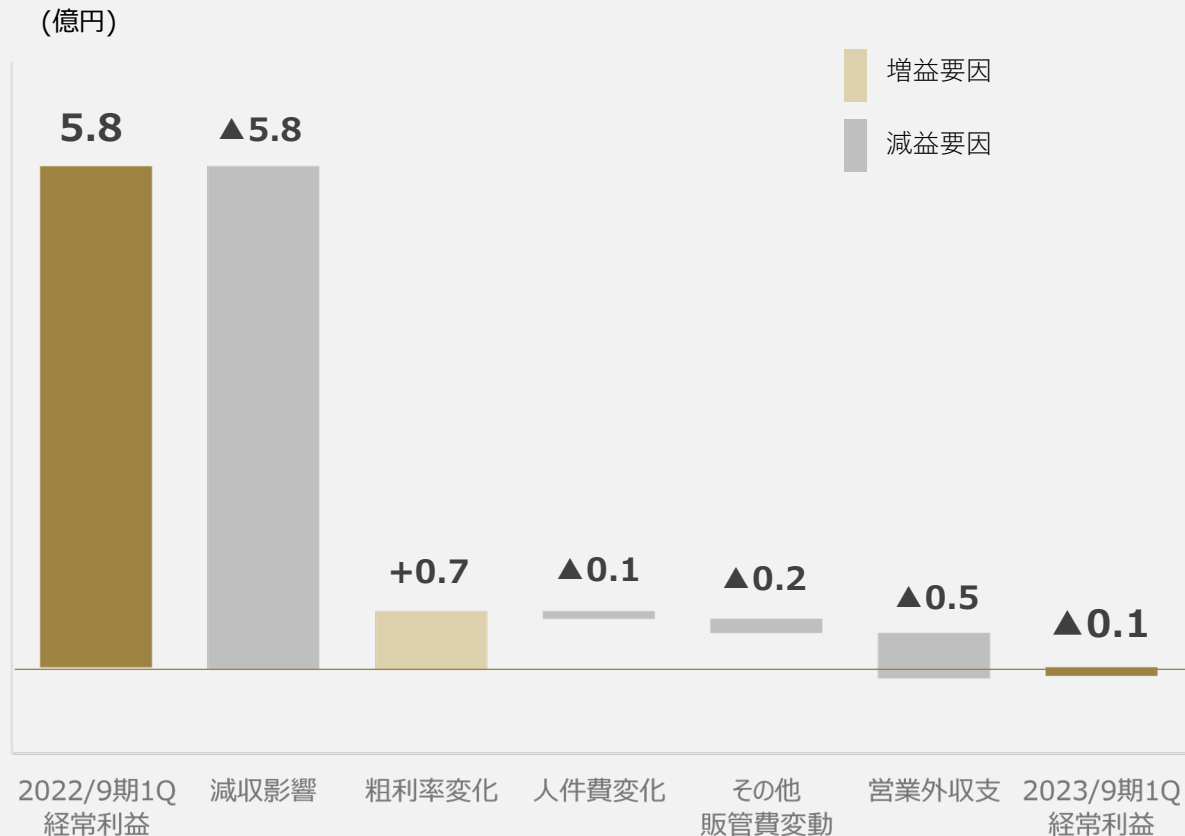
(百万円)	2021/9期				2022/9期				2023/9期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	7,971	8,907	4,593	4,875	10,678	8,078	6,438	4,571	4,936
メディカルトータルソリューション	7,691	8,624	4,321	4,598	10,404	7,821	6,169	4,293	4,650
遠隔画像診断サービス	162	164	155	164	172	159	171	173	180
給食	117	118	116	112	100	98	98	105	105
営業利益	405	445	▲64	▲209	529	241	114	▲235	▲11
メディカルトータルソリューション	370	410	▲89	▲228	499	226	97	▲247	▲34
遠隔画像診断サービス	23	21	16	10	26	14	15	10	20
給食	9	12	7	6	2	1	1	1	1
調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0



2023年9月期1Q 経常利益増減益要因分析

- 1Q経常赤字転落の主因は売上減少。新增改築案件、特に20億円以上の大型案件の減少が大きく影響
- 一方、粗利率は改善。前期に戦略的意図から取得した一部低採算案件の影響消失に加え、粗利重視の営業を推進
- 販管費も若干の上昇。人件費、その他固定費、外注関連費用がほぼ等しく負担増となり、業績の重石に

経常利益増減益分析



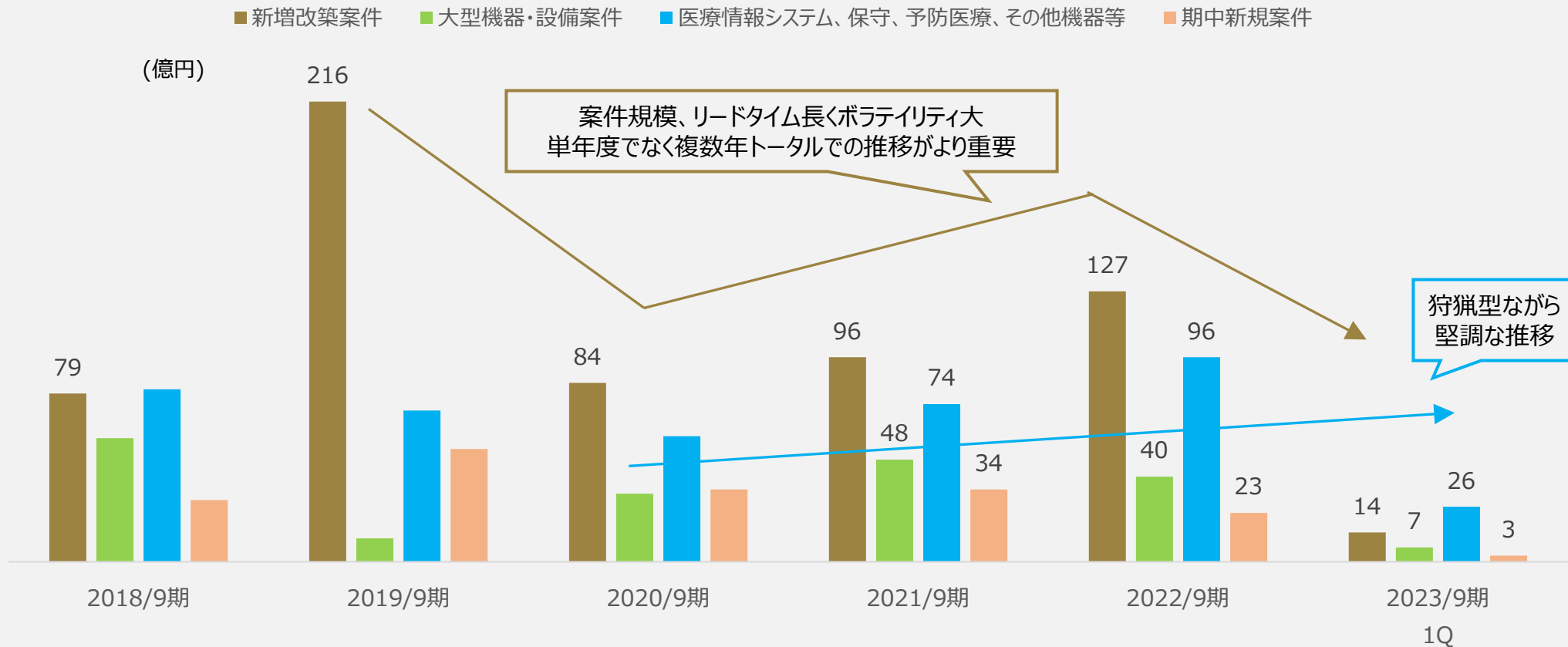
- 減収影響 ▲5.8億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業売上が案件減少により▲5.8億円
 - ・10億円以上の大型案件は1Q期間中に計上なく、実績は小型案件が主体に
- 粗利率変化 +0.7億円
 - ・前年計上した一部低採算案件の影響が消失
 - ・それら特殊案件を除いても、粗利率は改善基調継続
- その他販管費変動 ▲0.2億円
 - ・業務委託/支払手数料 ▲0.1億円
 - ・地代家賃/交通/減価償却費 ▲0.1億円



メディカルトータルソリューション事業売上内訳推移

- 1Qのメディカルトータルソリューション事業では、システム・保守・予防医療などの領域の売上が伸長。現時点ではとの限定付きながら、同事業における最大の売上領域に。この領域は中期戦略ではより重要な位置づけを担う計画
- 一方、狩猟型ビジネスの中心を成す新增改築案件の売上は、大型案件の計上なく、調整局面

メディカルトータルソリューション事業売上内訳





2023年9月期1Q 貸借対照表

- 前期末比較では大きな変化なし。売掛金増加により若干キャッシュポジションが低下
- 1Q末の自己資本比率は39.0%。実質無借金経営を継続し、1Q末時点のネットキャッシュは47億円

財政状態の推移

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期	2023/9期1Q	前期末比差異
流動資産	12,198	11,755	12,232	12,259	+26
現預金	4,450	5,408	5,480	4,831	▲649
受取手形・売掛金/契約資産	6,652	4,820	4,360	5,004	+644
棚卸資産	60	188	24	53	+29
その他	1,034	1,337	2,368	2,370	+2
貸倒引当金	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0
固定資産	1,215	1,209	1,235	1,222	▲13
総資産	13,414	12,964	13,468	13,481	+13
負債	8,596	7,805	7,930	8,068	+137
買掛金	6,282	4,890	3,960	4,309	+348
有利子負債	338	127	92	92	±0
その他	1,975	2,788	3,876	3,666	▲210
純資産	4,817	5,159	5,537	5,413	▲125
負債純資産合計	13,414	12,964	13,468	13,481	+13



2

2023年9月期通期決算見通し



2023年9月期業績見通し

- 2023/9期通期では従来想定を据置き。1Qはスロースタートながら、2Q以降に売上が集中する見通し
- ただし、前期比では3期ぶりの減収減益を想定。受注端境期を迎え、メディカルトータルソリューション事業が調整局面となる見通し

経営成績の推移

(百万円)	2020/9期 実績	2021/9期 実績	2022/9期 実績	2023/9期 見通し	比較	
					前年比 増減率	前年比 差異
売上高	21,996	26,347	29,767	25,000	▲16.0%	▲4,767
メディカルトータルソリューション	20,970	25,235	28,688	24,000	▲16.3%	▲4,688
遠隔画像診断サービス	567	647	676	600	▲11.2%	▲76
給食	458	464	402	400	▲0.5%	▲2
営業利益	204	576	650	550	▲15.5%	▲100
メディカルトータルソリューション	117	463	574	480	▲16.3%	▲94
遠隔画像診断サービス	45	72	66	60	▲9.0%	▲6
給食	38	36	6	10	+66.6%	+4
調整	3	3	2	0	-	+8
経常利益	207	595	709	550	▲22.5%	▲159
親会社株主に帰属する当期純利益	120	390	437	360	▲17.6%	▲77

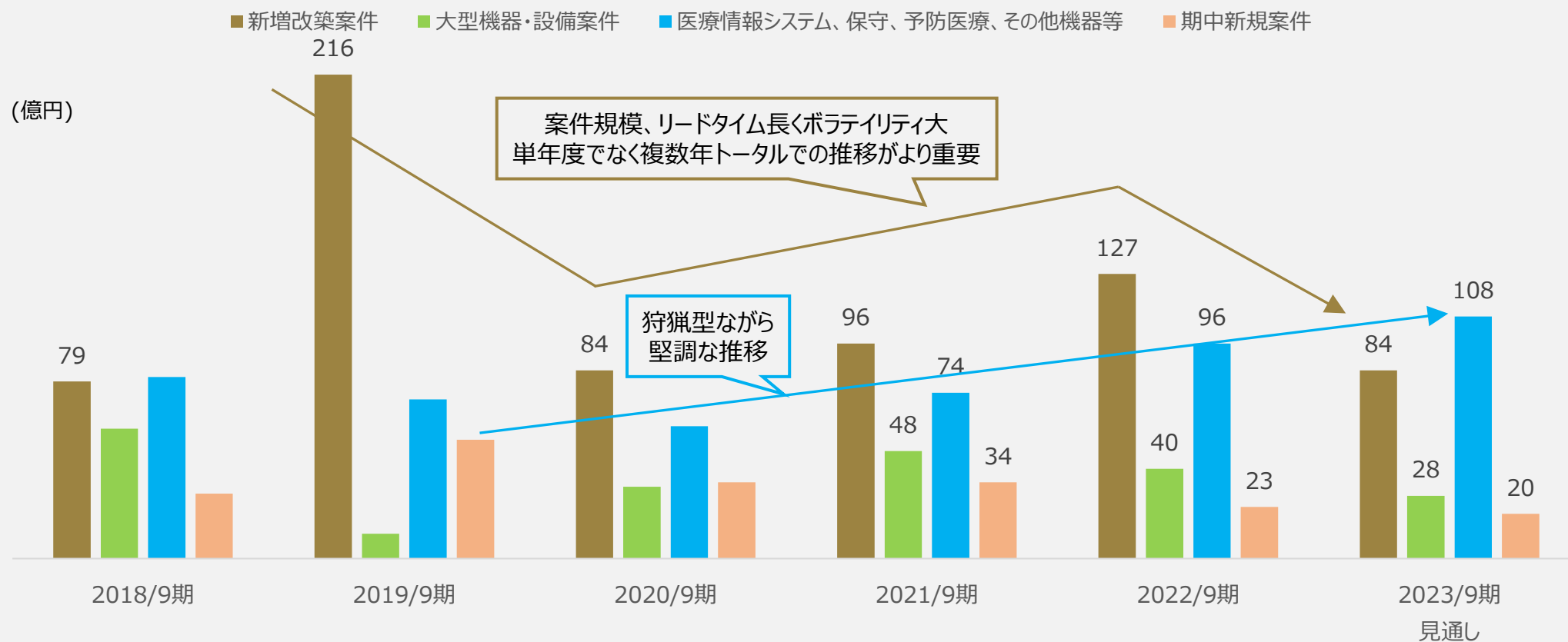
前回調整
局面



メディカルトータルソリューション事業売上内訳推移

- 主力のメディカルトータルソリューション事業では、3年周期にある新增改築案件の売上が端境期を迎える見通し。売上対象はちょうどコロナ禍局面で受注案件が中心。周期的な端境期という観点に加え、営業制約を受ける中、受注そのものも低水準で推移
- 一方、医療情報システム/保守/予防医療などIT展開イニシアティブを担う領域はストック型の特性を発揮し、順調に拡大を想定。一時的ながら、メディカルトータルソリューション事業で初めてこの領域の売上が最大になると予想

メディカルトータルソリューション事業売上内訳





2023年9月期通期業績予想前提

- 2023/9期の新增改築案件数は17件を想定。前期比5件の増加を見込む
- ただし、その内訳は10億円未満の中小規模案件がその主体となる見通し。20億円以上の大型案件は1件にとどまり、案件当たり単価は63%の下落を想定。前4Qから始まった案件端境期は、当期いっぱい継続するとの保守的な前提を置く

メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売の推移

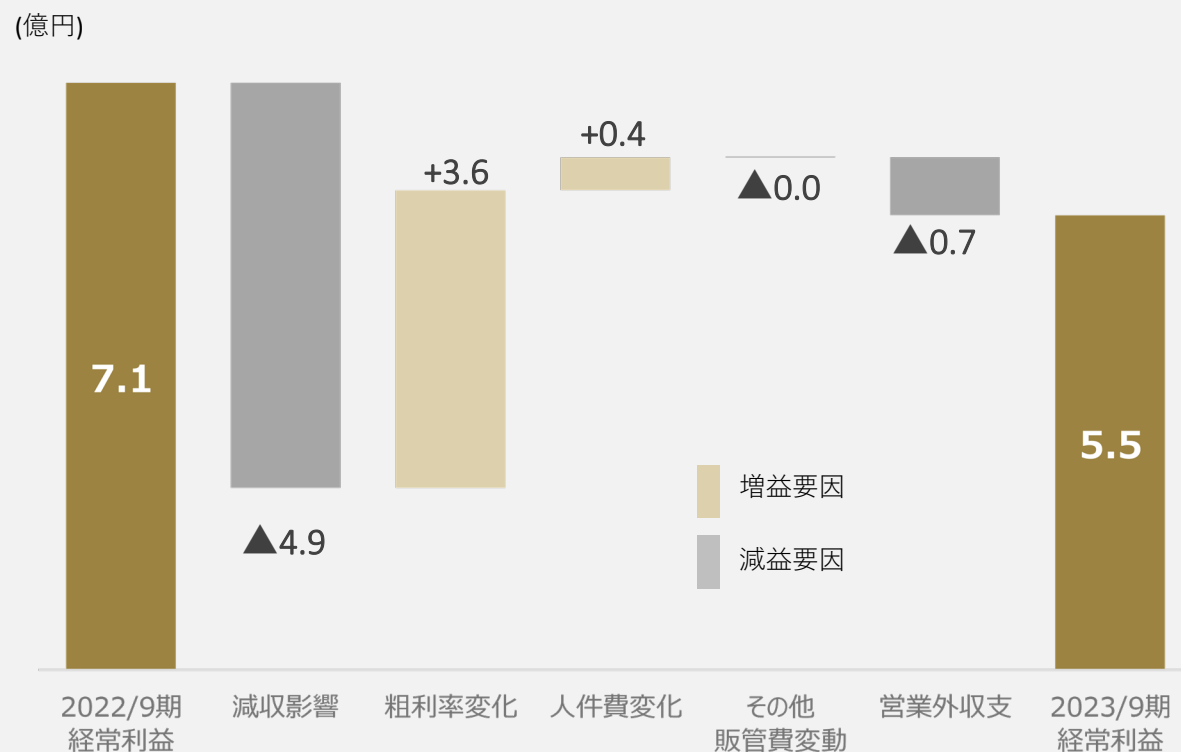
(百万円)		2020/9期	2021/9期	2022/9期	2023/9期 見通し	前期対比
20億円以上	売上高	2,562	4,739	9,877	2,271	▲7,606
	件数	1	2	3	1	▲2
	平均単価	2,562	2,369	3,292	2,272	▲1,021
10億円以上	売上高	2,954	1,476	3,995	2,080	▲1,916
	件数	2	1	3	2	▲1
	平均単価	1,477	1,476	1,332	1,040	▲292
10億円未満	売上高	2,928	3,395	2,180	4,007	+1,827
	件数	10	11	6	14	+8
	平均単価	292	308	363	286	▲77
合計	売上高	8,445	9,611	16,054	8,359	▲7,694
	件数	13	14	12	17	+5
	平均単価	650	686	1,338	492	▲846
事業売上に占める一括販売比率		40.3%	38.1%	56.0%	34.9%	▲21.9pt



2023年9月期想定増減益分析

- 減益となる主たる要因は、受注端境期による売上の減少。深掘営業の追求によって粗利率の改善などはプラス要因として寄与するものの、マイナス要因の吸収には至らない見通し
- コスト面では従業員数の増加はあるものの、業績連動賞与は保守的に織り込み、人件費トータルでは若干の減少を想定。一方、営業外収支では前期に雑収入に計上した保険解約返戻金は発生しない見通し

経常利益増減益分析

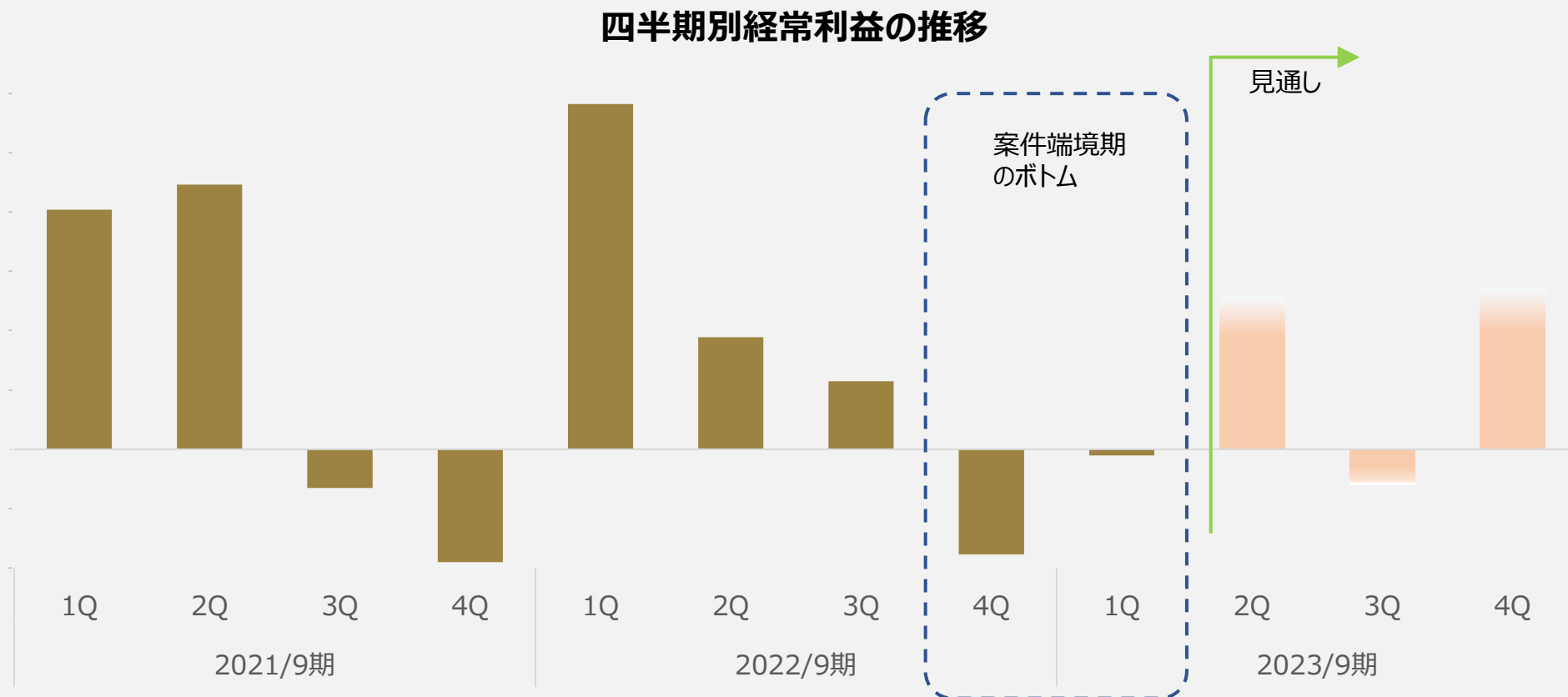


- 減収影響 ▲4.9億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業の減収が影響
 - ・ただし、ストック的ビジネスの積上げは着実に伸長
- 粗利率変化 +3.6億円
 - ・前期にあった戦略的意図による一部低採算案件の影響が消失
 - ・深掘営業追求に伴う付加価値増を想定
 - ・ストック的ビジネス増による構成変化
- 営業外収支変動 ▲0.7億円
 - ・保険料収入 ▲0.5億円



2023年9月期四半期別経常利益想定

- 案件計上端境期のボトムは前4Qから1Qにかけて。2Qは今期の案件計上が集中するため、業績面では一息つく展開に
- ただし、需要拡大ピッチの加速にはまだ至らず。3Qには反動減も否めないなど、2023/9期は総じて調整局面との見方に変更なし





3

トピックス

1

IT展開イニシアティブの取組みと進捗①
～問診票管理システム開発～

2

当社の主な大型機器・設備の取扱実績紹介

3

今後の投資戦略について



トピックス1：IT展開イニシアティブの取組みと進捗① 問診票管理システム開発



BEAR-D2：診療情報入力アプリ

スマートデバイスを使用した医療情報入力支援アプリ
患者と病院職員の双方にとって相乗効果をもたらすシステム
問診票を活用した医療情報に関する調査研究で東京医科歯科大学と連携



紙の問診の問題点

- ✓ 面倒な記入作業
- ✓ 問診票のスキャンや転記負担
- ✓ 問診票保存場所の確保



BEAR-D2導入メリット

- ✓ 患者入力負担を軽減するUI
- ✓ スキャンや転記負担の排除
- ✓ 問診票データは電子化
- ✓ データの二次利用も可能
- ✓ 接触機会減少による感染対策

問診票管理システム比較

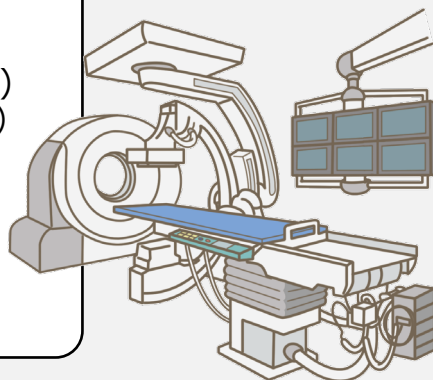




トピックス2：当社の主な大型機器・設備の取扱実績紹介*

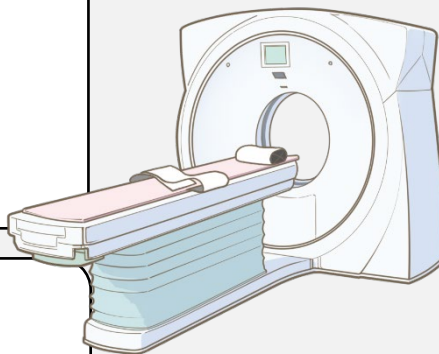
画像診断機器

PET(陽電子放出断層撮影装置)
 PET/CT(核医学診断用ポジトロンCT装置)
 MRI(磁気共鳴画像撮影装置)
 ガンカメラ装置
 SPECT(単一光子放射線断層撮影装置)
 X線CT装置(コンピューテッドトモグラフィー)
 アンギオ(血管造影撮影装置)
 マンモグラフィ(乳房X線検査装置)
 X線TV装置(エックス線テレビ)
 骨密度測定装置
 エコー(超音波画像診断装置)



検査機器

血圧脈波検査装置
 心電計
 脳波計
 血液ガスシステム
 自動分析装置

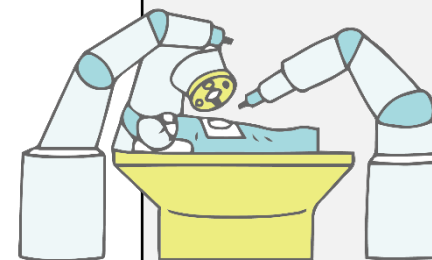


放射線治療器

リニアック(放射線治療装置)

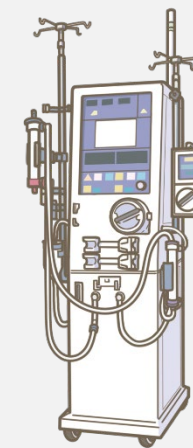
手術室関連機器

無菌手洗い装置
 手術支援ロボット
 手術用照明灯(無影灯)
 生体情報モニター
 全身麻酔器
 手術台
 ハイブリッド手術台
 手術室内装工事
 手術映像管理システム



透析関連装置

透析液供給装置
 コンソール(透析用監視装置)



中央材料室関連装置

オートクレーブ(高圧蒸気滅菌器)
 プラズマ滅菌器
 EOGガス滅菌器
 ジェットウォッシャー
 医用超音波洗浄装置

*直近2期の納入実績より抜粋



トピックス3：投資戦略

2022/12末時点の財務状況

✓ ネットキャッシュ	47億円
✓ キャッシュコンバージョンサイクル	-0.3日
✓ 自己資本比率	39.0%
✓ 総資産回転率 (2023/9期予想基準)	2.25回

資産効率を上げ、
ビジネス機会の開拓・獲得を加速

手元流動性の有効活用に着手

- ① **資本戦略の活用**
 - ✓ M&Aの推進
 - ✓ 積極的な出資による商圏ルートの強化
- ② **資金の一時立替え機会を活用**
 - ✓ 相手先キャッシュ負担の軽減で取引先拡大の機会獲得
- ③ **病院の再生/再編支援に活用**
 - ✓ 取引機会獲得
 - ✓ 地域医療への貢献

部門横断プロジェクトチームでの対応を計画



業績・財務ハイライト

決算年月		2018年9月	2019年9月	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期 1Q
売上高	(千円)	25,715,941	36,109,029	21,996,890	26,347,156	29,767,431	4,936,915
経常利益	(千円)	652,381	1,184,035	207,244	595,939	709,660	▲10,278
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	357,645	732,959	120,839	390,983	437,051	▲24,263
包括利益	(千円)	396,399	735,628	141,111	427,266	467,209	▲16,729
資本金	(千円)	331,507	331,507	536,169	539,369	539,369	539,369
発行済株式総数(自己株式を含む)	(株)	1,784,000	1,784,000	1,954,400	1,960,800	1,960,800	1,960,721
純資産額	(千円)	3,682,163	4,340,511	4,817,569	5,159,691	5,537,971	5,413,006
総資産額	(千円)	12,875,910	12,814,634	13,414,303	12,964,840	13,468,183	13,481,028
1株当たり純資産額**	(円)	2,016.04	2,376.58	2,408.78	2,567.33	2,746.25	2,684.85
1株当たり配当額	(円)	40.0	40.0	45.0	40.0	50.0	-
1株当たり当期純利益**	(円)	323.64	411.31	62.51	199.92	222.90	▲12.37
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	(円)	-	-	61.85	198.33	221.52	-
自己資本比率	(%)	27.9	33.0	35.1	38.8	40.0	39.0
自己資本利益率	(%)	11.2	18.7	2.7	8.0	8.4	▲0.5
配当性向**	(%)	12.4	9.7	72.0	20.0	22.4	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	962,625	2,764,536	▲1,906,273	1,298,076	242,357	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲52,847	▲91,784	▲63,598	▲42,129	▲49,958	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	203,275	▲213,022	238,372	▲298,007	▲120,931	-
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	3,702,552	6,162,281	4,430,782	5,388,721	5,460,189	4,811,111
従業員数	(人)	153	155	157	162	175	172
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(38)	(39)	(54)	(58)	(62)	(60)

*通期換算ベース **2018年9月13日付株式分割(1:200)後の発行済み株式数基準



ご留意事項

当資料は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料に記載されている内容は、当資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づく計画、期待、判断を根拠としております。したがって、実際の業績等は、経済情勢等様々な不確定要素の変動によって、記載の業績予想等と異なる結果になる可能性があります。実際に投資を行う際のご決定は、必ず投資家ご自身の判断に基づきなされるようお願いいたします。

株式会社レオクラン
経営企画室 IR担当
TEL : 06-6387-1554
Email : ir-support@leoclan.co.jp